

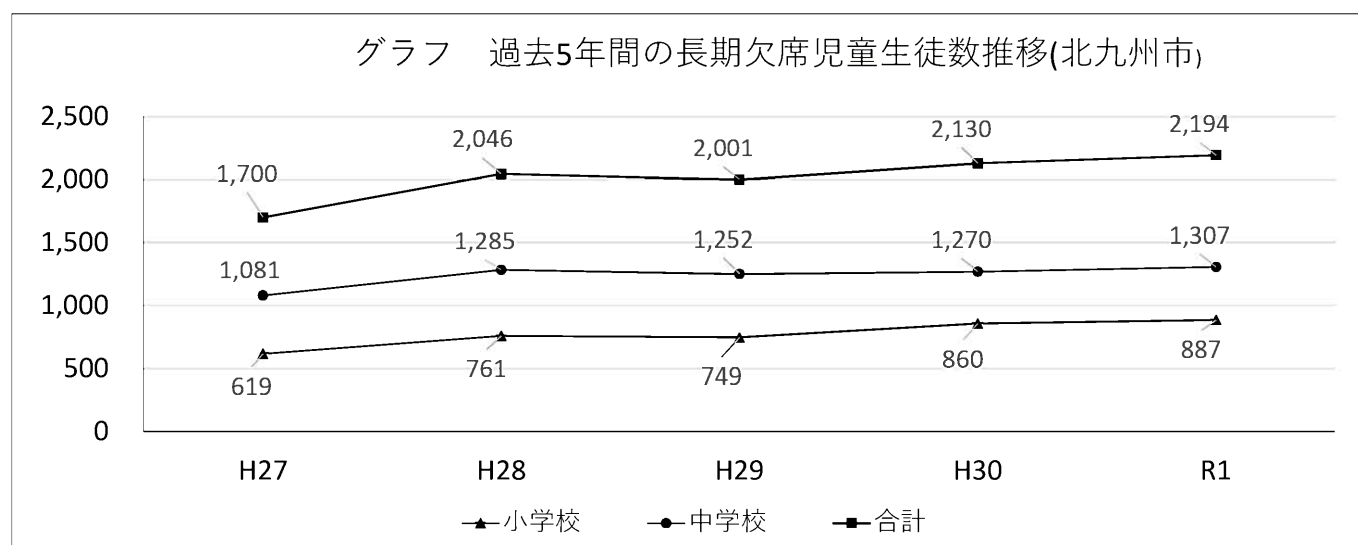
不登校に関する対策について

令和 3 年 2 月 3 日
北九州市教育委員会

不登校児童生徒への 対応について

最近の状況について

欠席日数が年間30日以上長期欠席児童生徒数は、増加傾向。



また、長期欠席の理由が不登校である児童生徒数も増加傾向。

※小学校及び中学校の不登校児童生徒数合計

平成27年度：720名 ⇒ 令和元年度：1,094名

不登校児童生徒の対応について

これまでも教育委員会では、

- ・ スクールカウンセラーによる小学校5年生への全員面接の実施
 - ・ スクールソーシャルワーカーによる家庭も含めた支援
 - ・ 不登校の未然防止への対応のためのアンケートとその活用方法等を紹介した「長期欠席の未然防止と初期対応」の冊子の作成
 - ・ 長期欠席対策モデル校を指定し、それらの学校での取組の普及
- など、様々な対策を実施。

2

長期欠席対策モデル校の取組

①学校での別室登校（校内適応指導教室）

登校したくなるような校内での居場所づくり

居場所づくり



まずは、実態に応じて興味があることを取り入れ、「また来たい。」と思える内容を検討。

興味のあることから



学習へ

学習面の補充



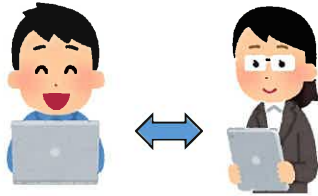
これまでの学習が定着できていないこともあるので、学習面の補充も必要。



3

長期欠席対策モデル校の取組

② ICTを活用した取組



ICTの環境が整い次第、別室登校や家庭でICTを活用。

【心のケア】
ICT等を活用して、人とのつながりを大切にする。
(学校・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等)

教室の遠隔カメラ



別室での遠隔授業の様子



【学習の補充】

- ・教育センターの授業動画や家庭学習動画の活用。
- ・今後利用可能となるデジタル教材を活用
- ・中学3年生対象のオンライン授業の活用等

4

長期欠席対策モデル校の取組

③ 関係機関との連携



少年支援室・フリースクール等での頑張りや些細な変化も聞き取り、好転の記録を大切にする。



不登校状態の子どもに寄り添った次への一歩応援事業（アウトリーチ）やYELLとの連携。

【不登校生徒 K】

ゲーム依存症、コミュニケーション能力に乏しい。

担任が家庭訪問しても玄関の鍵を開けない。

(好事例)

次への一歩応援事業と連携し、休日や学校外で継続した家庭支援を行った。SSW・専任生徒指導と協力のもと、家庭訪問を行った。1時間以上かけてドア越しに声掛けをしたことで生徒とつながり、その後学校近隣への散歩やゲームの話などでゆっくりとした時間を過ごし信頼関係を築き、別室登校への足がかりとなった。

5

不登校児童生徒の対応について

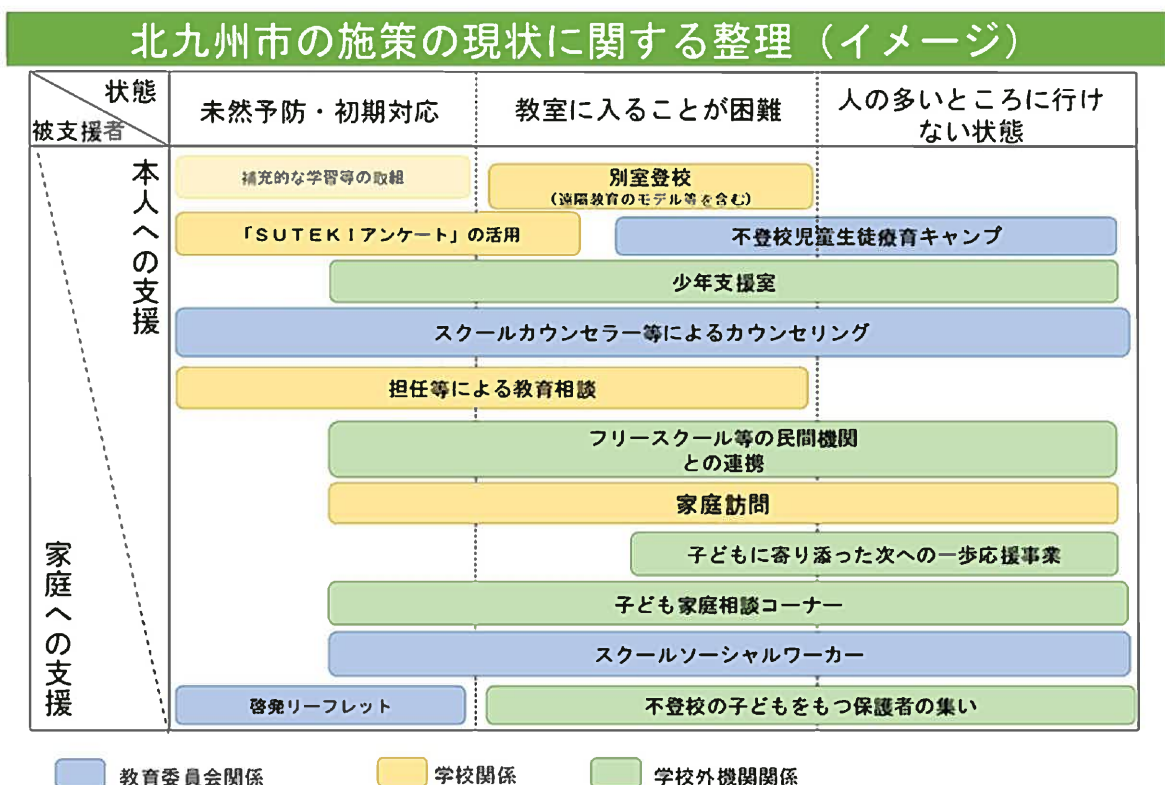
◆これまで対応をしているものの、長期欠席児童生徒数が増加している状況も踏まえて、子ども家庭局と協力して、「北九州市不登校等に対する総合的な検討に関する有識者会議」を開催して検討。

※令和元年11月から令和2年11月までおよそ1年間にわたり5回開催

◆今後は報告書の内容等を踏まえながら、関係部局や関係機関と連携しながら、施策を実施する予定。

北九州市不登校等に対する総合的な検討に関する有識者会議 報告書概略①

●これまでの本市の取組の整理



●今後の取組の方向性

【本市における今後の取組】

- ◆ 「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に基づき、取組を進めるとともに、不登校の児童生徒への支援に関しては、将来充実した生活を送れるようにすることが重要。そのため、学校への登校のみを目標とするのではなく、**「社会的自立」を基本的な理念とするべき**である。
- ◆ この基本的理念に基づき、基本的な施策の方向性とそれに対応した具体的な実施内容に関する会議としての提言をまとめた。

【基本的方向性と今後の新たな取組に関する提言】

- ◆ 社会的自立を念頭に多様な学び方を児童生徒に提供できるようにするとともに、**多様な学び方の中から児童生徒ごとに適切なアプローチが取れるように支援**をすることが重要。

(今後の新たな取組に関する提言)

- ・不登校児童生徒への支援内容について、**局・機関の垣根を越えた、保護者や本人にわかりやすいパンフレットとしてまとめ**、関係機関で配布できるようにすべき。

- ◆ 社会的自立の観点からは、**学力以外の面においても成長を保障していく取組を進めていくことも重要**であり、そのためには集団での学びやキャリア教育等の教育活動が重要。

(今後の新たな取組に関する提言)

- ・**教科以外の学習も含めたオンライン授業などを行う拠点**をつくり、子どもに自信がついたら、学校に戻るといったような柔軟な学校復帰の選択肢を作ることを検討すべき。

北九州市不登校等に対する総合的な検討 に関する有識者会議 報告書概略④

- ◆校長のリーダーシップの下、学校全体で組織として対応できる体制を築くとともに、担任等の教職員が指導する上での支援を行っていくことが必要。

(今後の新たな取組に関する提言)

- ・不登校児童生徒の状況等を的確にとらえ、チーム学校として適切な対応をするために、初期対応、ケース会議の在り方、別室での対応などの対策動画を作成すべき。

- ◆多様な学び方の中から児童生徒ごとに適切なアプローチが取れるように支援するためには、学校を含めて関係機関の連携を強化することが必要。

(今後の新たな取組に関する提言)

- ・児童生徒に適切なアプローチが取れるように、本市の組織について改めて見直し、必要があれば組織改正を行うべき。